Nature Geoscience の創刊を歓迎して

Welcome *Nature Geoscience*

Nature Vol. 450 (1127) /20/27 December 2007

ここにきてようやく、世界の人々は、人間が地球環境に与えた打撃がもたらす脅威に目を向けるようになった。しかし人間は、地球環境に与える打撃を軽減することもできる。そのためには、あらゆるレベル、あらゆるタイムスケールで、地球の構造と力学を理解しなければならない。

地球に関する理解は、徐々にではあるが着実に前進してきた。これは、すでに1世紀以上の歴史をもつ地球科学の重大な功績である。*Nature* の最も新しい月刊姉妹誌である *Nature Geoscience* は、地球科学分野の質の高い研究を取り扱い、この分野に関心をもつすべての研究コミュニティーの役に立つことを目的としている（http://www.nature.com/ngeo 参照）。他のすべての *Nature* 姉妹誌と同様、*Nature Geoscience* の創刊により、この分野に対する *Nature* 本誌の関心が薄れるようなことはけっしてない。

2008年1月に創刊される *Nature Geoscience* は、重要な研究の流れを追跡していくことが期待されている。例えば、気候科学の中では、急激な海面上昇、温暖化、海洋酸性化、地質学的タイムスケールにおける大気中の二酸化炭素濃度と世界の気温との重要な関連など、現在の変化によく似た過去の変化を研究する分野が盛んになってきている。伝統的に地質学を基礎としていた古気候研究者たちは、今日では、気候モデル製作者や現代の気候の研究者との結びつきを強めている。

2004年には、マントル最下部の主成分である $MgSiO_3$ ポストペロブスカイトという鉱物の高圧相が発見された。この領域の構造を理解するために、固体地球科学者たちは今日もなお、この発見の意味を探求し続けている。この発見は、下部マントルの温度、マントル対流、地球のコアとマントルの間で起こる鉄と熱の交換についての理解に影響を及ぼすだけでなく、地球の歴史や、地球のコアや地球ダイナモの進化についての理論にも関わってくるからである。

すべての *Nature* 姉妹誌と同様に、*Nature Geoscience* にも非公式なセクションがある。「Backstory」のセクションでは、1500万年間の北極海の海洋循環の再現、アラビア海の海底地図の製作、アラスカの氷河の研究など、研究論文として発表できる段階にはないが、信頼度の高い研究について説明する。毎月、印刷版の最終ページにこうした記事を1本掲載し、オンライン版には追加の記事も掲載する。

2008年は「国際惑星地球年」であるが、そのほかにも地球に注目した複数の国際プログラムが始まることになっている。*Nature Geoscience* は、絶好のタイミングで創刊されるのだ。■

Nature Geoscience 創刊号（2008年1月号）

nature

©2008 NPG Nature Asia-Pacific